

11月のどきどき

シーズン幕開け

第16回安平町長杯小学生アイスホッケー大会が11月4日、せいこドームで開催され、札幌や苫小牧のチームらが優勝目指して競い合いました。

開会式では地元あびらギャロップ主将佐々木隆弥君が選手宣誓を行いシーズン幕開けと試合での意気込みを告げました。



第14回6時間スイム&ウォーキングリレー

参加者が、それぞれのペースでどれだけの距離を進めるかを計測するリレーイベントが11月25日せいこドーム温水プールで開催されました。午前10時に始まってから6時間の間には延べ92名が参加し、スイムは約40キロメートル、ウォーキングは約34キロメートルと記録の更新とはなりませんでしたが楽しく体力づくりに親しんだ一日でした。



夢を持つことの大切さ

11月8日、追分高等学校で「人権啓発講演会」が開催され、元プロサッカー選手の経歴を持つ、パラリンピック車椅子バスケット日本代表の京谷和幸氏を講師として迎えました。

Jリーガー時代の交通事故で下半身が動かなくなり、大きな失望や挫折から立ち直ることができた経験談は「夢や

目標をもつて生きる」ことや「人とのつながりを持ち、互いに助け合う」ことの大切さを話されました。

講演会は「基本的人権尊重の精神を身につけてもらう」目的で全道各地で開催されていて、安平町では町内の中学校と追分高校の生徒、一般の方への案内を行い開催されました。

講演会の後に行われた京谷氏と生徒らのフリースロー対決では、現役を引退したにもかかわらず、圧倒的な実力の差を見せてくれました。



ひとりじゃない

命は尊いもの

犯罪被害者支援強化週間の一環として、北海道警察と社団法人北海道家庭生活総合カウンセリングセンターが協同で「命の大切さを学ぶ教室」を企画、11月26日早来中学校で殺人事件被害者遺族の会・「宙の会」理事生井澄子氏を招いて講演会が開催されました。

生井氏は、凶悪な犯罪によつて家族を失った遺族とし

ての悲しみや苦しみを時折声を詰まらせながら語り、静かに耳を傾ける生徒たちに「いじめによつて、尊い命が失われている。命は自分のものだけではない。親、学校、社会、この国にとつて大事なものであることを忘れないで欲しい。決して一人で悩まないで」と力強く訴えました。

遺族の生の声を聞き、代表でお礼を述べた鈴木太虎君が、「今、できること、行動できることはすぐにでも実践していきたい」としっかりと口調で誓い、講演を聞いた生徒たちにとつても、命や家族の大切さを考える貴重な時間となったことでしょう。

